

開講科目名 Course	現代会計論研究 (A) / Modern Accounting Theory (A)
時間割コード Course Code	13580
開講所属 Course Offered by	会計学研究科博士前期課程 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2022年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	他 2
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	荒鹿 善之
科目区分 Course Group	基幹科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	荒鹿 善之 (経営学部)
授業の目標	<p>本講義では国際会計に関する英語文献を輪読し、会計基準の国際的調和化・統一化、および各国における国際会計基準 (IFRS) の国内導入 (アドプション) の経緯について理解を深めることを目標とします。</p> <p>また、修士論文やリサーチペーパーの執筆において、少しでも英語文献を参考にできるような準備にも取り組みます。毎回の授業において各自、テキストの担当箇所を翻訳し、提出する形式で授業を進めます。</p>
授業の概要	<p>1980年代後半から会計基準の国際的調和化が盛んに議論されるようになり、近年では世界各国においてIFRSのアドプションが行われています。日本でも2001年に企業会計基準委員会 (ASBJ) が設置され、会計基準の国際化対応に追われてきました。その結果、現在では200社を超える企業がIFRSを任意で適用するようになりました。</p> <p>このような現状において、国際会計基準審議会 (IASB) のこれまでの活動を振り返るとともに、どのような経緯を経てIFRSが各国へ浸透したのかを考察することは意義のあることだと思われます。また、修士論文やリサーチペーパーを執筆するにあたり、会計に関する外国語文献に触れる必要があると考えられます。</p> <p>そこで、上述したように、国際会計に関する英語文献を輪読し、会計基準の国際的調和化・統一化、および各国におけるIFRSのアドプションの経緯について考察します。加えて、修士論文やリサーチペーパーの執筆において、少しでも英語文献を参考にできるような準備にも取り組みます。</p>
評価方法	課題の提出状況に基づいて評価します。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 Reasons for harmonization 3 Example of the need for harmonization 4 Obstacles to harmonization 5 Measurement of harmonization 6 History and purpose of the IASC 7 The standards and acceptance of them 8 Was the IASC successful? 9 Empirical findings on the IASC 10 International Federation of Accountants 11 The AISG, the G4+1 and the 12 IOSCO 13 European Union 14 Other regional bodies 15 まとめ

テキスト	Nobes,C. and Parker,R. “ Comparative International Accounting,13th ed. ” Pearson. Kinserdal,A. “ Financial Accounting -an international perspective-(second edition) ” Financial Times Management.
参考書	Kawasaki,T. and Sakamoto,T. “ General Accounting Standard for Small and Medium Sized Entities in Japan ” Wiley.
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	質問については随時対応します。
フィードバックの方法	課題の模範解答や解説資料を配布します。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	毎週、テキストの翻訳・提出を求めます。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	